

コード No. 10076

**Anti-
Tight Junction-Associated Protein (7H6) Mouse IgM MoAb**

容量 : 500 μ g

はじめに : 物質の細胞間透過にバリアーとして働くタイト結合の新しい関連蛋白、7H6 抗原が見出されました (1)。この 7H6 抗原は、タイト結合に局在することによってバリアー機能を増強し、細胞間の物質透過性を制御することが、Madin-Darby イヌ腎尿細管上皮 (MDCK) 細胞、ニワトリ網膜色素上皮細胞、ニワトリ小腸粘膜上皮細胞などで示唆されています (2)。クローニングされた cDNA から読みとられたアミノ酸配列より、哺乳類の SMC ファミリー蛋白と考えられる 7H6 抗原は、タイト結合の裏打ち蛋白として存在し、タイト結合の構造蛋白を凝集することによってタイト結合のバリアー機能を増強する働きを担っているものと考えられています。

免疫抗原 : ラット肝の精製毛細胆管膜分画

起源 : マウス×マウス ハイブリドーマ (培養上清)
(NS-1×BALB/c マウス脾臓細胞)

クローン名 : 7H6

サブクラス : IgM

精製方法 : マウス IgM カラムによる特異精製

包装形態 : 1% BSA, 0.05% NaN₃ 含有 PBS 1.0 ml に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 蒸留水 1.0 ml 添加

保存方法及び : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定

安定性 : 溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定

使用目的及び : 免疫組織染色 1 ~ 5 μ g/ml にて使用可能 (凍結切片)

使用方法 : ウェスタン・ブロッティング 0.5 ~ 10 μ g/ml にて使用可能

交差性 : ラット、ニワトリと交差します。

参考文献 : 1. Zhong Y., Saito T., Minase T., Sawada N., Enomoto K., and Mori, M. Monoclonal antibody 7H6 reacts with a novel tight junction-associated protein distinct from ZO-1, cingulin and ZO-2. *J. Cell Biol.* **120** (2): 477-483, 1993.
2. Zhong Y., Enomoto K., Isomura H., Sawada N., Minase T., Oyamada M., Konishi Y., and Mori M. Localization of the 7H6 antigen at tight junctions correlates with the paracellular barrier function of MDCK cells. *Exp. Cell Res.* **214**: 614-620, 1994